

青木正人

第1回 専門職も当事者として協働する有機的な関係

「未来からの学習」ができる人材育成が不可欠

「地域包括ケアシステム」とは「国際的にもその実現が困難とされる『community-based integrated care system』を構築するという試み」(筒井孝子・東野定律「地域包括ケアシステムにおける保険者機能を評価するための尺度の開発」国立保健医療科学院「保健医療科学」2012年第61巻第2号)といわれるように、モデルを他国や過去に求めることができないだけでなく、少子高齢社会のトップランナーであるわが国が、切り拓いていくべき未曾有の領域です。このように考えるとき、

湖に浮かべたボートをこぐように人は後ろ向きに未来へ入っていく目に映るのは過去の風景ばかり
明日の景色は誰も知らない
(ポール・ヴァレリー)

という詩句を思い出します。私には、ヴァレリーが「断絶する未来を創造するために必要な視点は、バックキャストイング(Backcast-ing)だ」と訴えかけているように思えてなりません。バックキャストイングとは「将来を予測する際に、持続可能な目標となる社会の姿を想定

し、その姿から現在を振り返って、何をすればいいかを考える方法」をいいます。

地域包括ケア時代に求められる人材に不可欠な要素は、まさに「持続可能な発展に向けての戦略的なアプローチ」、言い換えれば「過去からの学習」だけに頼るのではなく、「未来からの学習」ができることだと考えます。

本連載は、地域包括ケアを担う専門職をはじめとする多様なプレイヤーに求められる新たな視点やスキル、そのような人材を開発・育成するために必要なビジョンや仕組みについて考察していくものです。

専門職に求められる

「地域の物語」を共に紡ぐ力

地域包括ケア研究会の「地域包括ケアシステムを構築するための制度論等に関する調査研究事業報告書」(2014年3月)によれば、第三部「3・人材育成のあり方」の「統合的なサービス提供を進める上で各専門職に求められる機能」に、次のような記述があります。

「本人を中心とした統合的なケアを提供し生活の質を支えていくためには、各専門職には『本人との協働』『地域との協働』の役割が求められる

る。『本人との協働』は、本人が自らの意志に基づき、自らの持つ力を最大限生かしながら、よりよく生きる『養生』のために、十分なコミュニケーションを通じて、先を見越した適時適切な情報・助言、支援・サービスを提供することである。『地域との協働』としては、地域の生活支援の担い手の育成、包括的な生活支援の拠点との連携や後方支援が考えられる」

この「地域を基盤とする統合ケア」という視点について、地域包括ケア研究会のメンバーでもある堀田聰子・労働政策研究・研修機構研究員は「地域包括ケアの推進を図るには、一人ひとりがどのように生き、どのように死んでいきたいのか、よりよく生きるために何ができるか、それはどのようなまちにおいて実現できるのか、『当事者として』考え、語り合うことが出発点となる。『高齢者の』『利用者の』『患者の』ケアの改善を手がかりとしながらも、目標は『すべての住民』が『よりよい生活の中での経験』を『ともに創りだして』いけるまちづくり、地域としての『物語』(Narrative)を紡ぐことであることを、基本方針とともに地域において十分に共有していくことが不可欠である」(「オランダの地域包括ケ

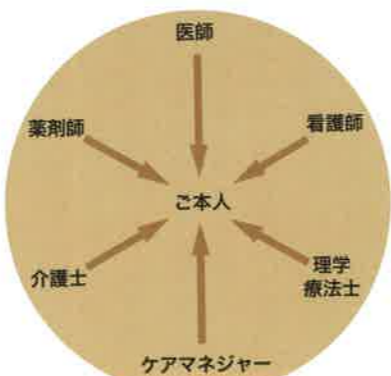
アーケア提供体制の充実と担い手確保に向けて」労働政策研究報告書No.167・独立行政法人労働政策研究・研修機構、2014年5月30日)という見解を示しています。

まちづくりの連携関係は「生きた有機体」

地域包括ケアを担う人材——医療・看護・リハビリテーション・介護等の専門職、日常生活を支援する民間事業者・NPO等、ケアマネジャー・地域包括支援センター、高齢者を含む地域住民など——にとってもっとも大切なことは「利用者本人を中心として地域の中で協働する」というあり方であり、そのためには専門職も、サービスの提供者という一方的な関係にとどまるのではなく、「当事者」「まちづくりの協働者」として意識の転換を図らなければならないということです。

その根本は、地域コミュニティとそのネットワークは、機械的な連携関係にあるのではなく、生きた有機体として存在しているということです。利用者本人を含めた地域包括ケアのプレイヤーは、機械の部品ではなく、生物の器官のように相互に深くかわり合い、影響を及ぼし合いながら存在するものなのです。

従来型の利用者中心ケアモデルのイメージ



地域包括ケア時代のケアモデルのイメージ



セミナー「2015年介護報酬改定から地域包括ケアの未来を探る」開催

- 日時：2月15日(日) 13:40～16:40
- 会場：フォーラムエイト(渋谷区道玄坂2-10-7)
- 対象：介護事業経営者・幹部・管理者
- 講師：鈴木 邦彦氏(日本医師会常任理事)、青木 正人
- 問合せ：info@well-be.net

あおき まさと
青木正人 株式会社ウエルビー代表取締役
1955年、富山県生まれ。神戸大学経営学部卒業。2000年、株式会社ウエルビー設立。介護経営指導の第一人者として介護福祉ビジネスの経営・人事労務・教育分野ならびに自治体の福祉施設等のコンサルティングを展開。日本介護経営学会会員、現代経営学研究所会員。